

■学校教育目標

澆刺・純情・夢ありの精神を持つ生徒の育成
～基礎学力・基礎体力・基礎モラル力の定着を目指して～

■指導の重点事項

- 1 「基礎学力」・「基礎体力」の定着
- 2 「基礎モラル力」の育成
- 3 「学びの意義」の確立
- 4 「伝統文化の継承」と「地域愛」の育成
- 5 「教職員の資質」の向上

■学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・自己評価と保護者アンケートを実施し、考察と改善策がまとめられていて適切に評価を実施している。学校評価は学校運営や教育実践についての評価なので、教職員自身の取り組みについての評価は掲載する必要はないと思う。教職員の評価は人事評価育成の面で活用されたい。
- ・オープンスクール等を通して保護者からの意見をもっと吸いあげてはどうか。

■総合的な学校自己評価

学校教育目標の実現のため、「教学一如」の精神で「個」の夢を叶え「集団」を輝かせる教育を推進している。「もうひと手間」かける教育姿勢で、目の前の子どもの姿が全てを物語るを指針として教育実践をしている。おおむね肯定的な自己評価となっている。

■総合的な学校関係者評価

- ・オープンスクールで生徒の落ち着いた様子が見られ、非常に良いと感じる。
- ・さらに高みを目指すという上での評価であると感じている。
- ・全職員での評価が上がっていることを肯定的に捉えてください。
- ・細かな部分まで目配りされていることが評価できる。
- ・自己評価の高さが、学校長の学校経営方針のもと教職員が一丸となって取り組んでいくことを表している。

学校自己評価結果（A：よくできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった）

評価の観点	評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
学習指導	1 「教科嫌いをつくらない」魅力的な授業づくりに取り組んでいる。	B	話し合い活動を取り入れ、一人一人の意見を発言させる機会を授業の中につくり、自分の思いを表出させることで主体的な学びの実現を目指している。 苦手な生徒にも充実感・達成感を味わわせることを大事にしている。 課題としては、時間の捻出や教師側の指導力の向上をしていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・数学、英語の少人数学習は「個に応じた指導」の実施で保護者の安心につながる。 ・どの学級も落ち着いて授業に取り組んでいた。 ・教員の板書の文字をもう少し丁寧にしてほしい。 ・Chromebookでのタイピングが非常に慣れてきた。学習道具の1つになっている。 ・ICTが日常になっている。 ・対話や小集団で生徒に発言する機会を与えようとしている点が良い。
	2 「基礎学力定着」のため、教科の特性を活かした指導方法を工夫している。			
	3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組んでいる。			
	4 生徒の個性や到達状況などを把握し、「個に応じた指導」を実践している。			
	5 生徒が自ら課題を見つけ、「主体的に課題に取り組む」学習を取り入れている。			
	6 学習評価を「生徒の学習改善」や「自身の指導改善」の視点で活用できている。			

評価の観点	評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価	
生徒指導	7	基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成に努め、基礎モラル力の定着に取り組んでいる。	A	<p>自主ノートや普段の会話から生徒の気持ちをくみとり、問題行動の未然防止に努めた。その際に気になる内容は学年・学校で共有し、報告・連絡・相談を密にして関係機関との連携も行き指導にあたった。</p> <p>事実確認が不十分であったり、初動が後手になってしまう事案があった。そのため、さらに確実な事実確認のもと生徒指導の充実を図る必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多忙な中で真剣に生徒と向き合っていることが分かる。 ・横断歩道の下車や一旦停止を徹底させ、安全な登下校をさせてほしい。 ・不登校の取り組みに関して、良い評価であるが、現状として不登校生の増加が気になる。 ・厳しく指導されても、心ある言葉は生徒に伝わるものと考えます。 ・不登校支援の取り組みは良い評価であるが、不登校生数が増加している。不登校支援に地域を活用してもらえれば、もっと協力したいと思っている。 ・コロナ禍が大きく影響した学年であると考えられる。
	8	「優しいけれど甘くない、厳しいけれど冷たくない」姿勢で生徒と向き合っている。			
	9	問題行動等に対し、報告・連絡・相談を確実にし、組織的な対応に繋げている。			
	10	不登校生徒に対し、SCやSSW、総合教育センター等と連携するなど、状況に応じた適切な支援に取り組んでいる。			
	11	保護者に対して、必要な連絡や相談を迅速丁寧に行い、適切な信頼関係を築く努力をしている。			
道徳教育	12	様々な教育活動で、自分を見つめ、他者の考えを認めながら、共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う指導に取り組んでいる。	A	<p>学年間で事前事後研修を実施し、学校全体で熱心に取り組んだ。</p> <p>相互の指導助言も充実している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の考えを聞くことで道徳性は養われると思います。家庭では学べない分、大切だと感じます。 ・学校全体で道徳の授業研究に取り組んでいるところが素晴らしい。
	13	道徳科の授業において、教材・資料を十分に検討したうえで授業力を向上させ、道徳実践力の育成に努めている。			
人権教育	14	自他の違いを認め共感的に理解した上で、協力してよりよく生きる姿勢を育てている。	A	<p>いじめを人権課題として捉え、改善に向けて道徳実践力の向上を目指した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様性を認識し、受け入れ、尊重する姿勢がより良い学校生活につながる。 ・人権教育は道徳の時間だけでなく全ての教育活動で人権感覚を養っていくことが大切である。 ・教職員一人一人の人権感覚が問われる。
	15	いじめ等の人権課題を理解し、共によりよい生き方について考えを深めさせている。			
特別活動	16	生徒会や実践部を軸とした生徒の主体性・創造的な活動を支援し、生徒主体の学校づくりの推進に取り組んでいる。	A	<p>学校行事を点で捉えるのではなく線として捉え系統立て、生徒会を中心に主体的な学校づくりの場とすることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会の頑張っている姿が印象的でした。 ・体育大会での生徒のひたむきな姿に感動した。 ・頭髪のきまりについての議論でも、生徒の意見が反映されている。
	17	「道徳実践の場」「リーダー育成の場」と捉え、非認知能力の育成に努めている。			

評価の観点		評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
進路学習	18	キャリア教育の視点を持ち、将来に夢や希望を持たせる指導に取り組んでいる。	B	卒業後の生徒の姿を見据えた指導をもっと綿密にできたのではという反省がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人差はあるが、情報を整理し将来(社会人生活)に向けての指導をしてください。 ・キャリア教育に取り組まれていたが、継続して取り組まれているだろうか。
	19	保護者と連携し、自らの意志と責任で生き方や進路選択ができるよう、進路・教育相談の充実に努めている。			
健康 安全 防災教育	20	常に生徒の心身の健康状態の把握に努め、健康の保持増進を図る指導に努めている。	B	<p>養護教諭、体育科教師によるはたらきかけにより、心身の健康の保持に努めた。</p> <p>防災教育では、震災体験を身近なものとして捉えさせ、風化することのないように取り組めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・火災関連の事柄も含めてはどうか。 ・防災教育で、座学に終わることなく地域人材(加西らん)を活用して体験的に取り組んでいることが良い。 ・スクールカウンセラーによるSNS「うわさの伝わり方」の学習は今日の子ども課題を具体的に考える良い取り組みだと思う。
	21	常に施設・設備に危険箇所がないか気を配り、下校指導等で生徒の安全意識を高める指導に取り組んでいる。			
	22	適切な危機意識を持たせ、自助・共助の精神を理解させる指導に取り組んでいる。			
	23	災害や事故等の緊急時の体制を理解し、役割分担を遂行できる準備が出来ている。			
総合学習	24	「総合的な学習の時間」の意義を理解し、教科指導との関連を図る取組が出来ている。	B	教科指導との連携を密にし、主体的な学びへとつなげることが課題である。	・中学校の総合学習は、学校の外の者には見えてこない。
特別支援教育	25	全ての教室に特別な支援を要する生徒がいることを理解し、実態把握と特性理解に努めている。	B	インクルーシブ教育を構築するために、特別支援教育の視点を取り入れ、折り合いをつけることが重要となる。	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた支援が行われているように思う。通常学級にいる支援が必要な生徒も含め、学校全体でインクルーシブ教育を推進することが重要である。
	26	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり、学級経営に努めている。			
部活動	27	「強いチームづくり」よりも、学年やクラスで活躍できる生徒づくりを目標として指導に当たっている。	A	<p>部活動指導が学年で生きるように意識して指導している。</p> <p>チームの目標を明確にしておく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我が子の自己管理能力や忍耐力が向上しました。先生や先輩からたくさんの事を学んでいました。 ・個人のスキルアップを目指すだけでなく、部活動の成長が学年で生きるように意識していることが良い。
	28	部活動の意義を理解し、生徒の自主自立活動の場として、達成感や充実感を得られる指導方法の工夫に取り組んでいる。			

評価の観点		評価項目	評価	学校の取組状況・改善の方策	学校関係者からの評価
家庭 地域連携	29	学校の情報を積極的に提供し、保護者や地域の方の学校への関心を高め、理解と協力を得られるよう努めている。	A	学年日より、学級通信、ホームページの充実に取り組めた。	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく、充実した様子がお便りやホームページで伝わってきました。 ・トライやるの活動にコミュニティースクールを活用すれば良いのでは。 ・校則の検討についても参画したい。 ・学年日より、学級通信、PTA 広報、HP等で学校の情報を発信している。また、トライやる・ウィークや防災教育で地域との連携にも努めているが、一層充実させる余地がある。
教職員の 資質向上	30	分掌された校務を適正かつ迅速に行うことで、学校運営に対する参画意識をもって職務に取り組んでいる。	B	<p>決められた研修だけでなく職員室内での会話がOJTになっている。</p> <p>コンプライアンスチェックを通して、自分を見つめる機会を設け、振り返るようにしている。</p> <p>勤務時間の適正化に努めてはいるが、ワーク・ライフ・バランスの確立が大きな課題となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムマネジメントを確実にお願いします。 ・ワーク・ライフ・バランスの問題がまだ課題として残っている。 ・生徒の個々の良さを見てくださり、信頼できます。 ・部活指導のある中学校では改善が難しいとは思いますが、学校独自のアイデアで負担軽減に努めてほしい。 ・教職員の育成にOJTを重視している点は賛成である。
	31	OJTや校内研修を活用して資質向上に努め、中学校教師として専門性を伸ばすことができている。			
	32	業務改善、勤務時間の適正化に努力し、「ワーク・ライフ・バランス」の確立が出来ている。			
	33	常にコンプライアンス意識を保持し、教育公務員として信頼されることを意識しながら、職務遂行に努めている。			